

第7章 物集女城跡の保存と活用

1 物集女城を考える会

平成4（1992）年度から3か年計画で実施してきた京都府指定史跡 物集女車塚古墳（現「史跡乙訓古墳群」）の整備工事〔平成7（1995）年3月竣工〕に一定の目途がついた本市は、平成6（1994）年から同町域内に所在する物集女城跡に焦点を当てることとなる。

これは、第1章でも記したとおり、当時に物集女城跡の北方約100mの地区で実施されていた府道中山稲荷線の拡幅工事をはじめ、同町域内で実施されていた各種の公共工事において地元協議が行われ、その中の要望の一つに「物集女城跡の保存と活用について検討すること。」が挙げられたことにある。

このため、物集女城跡の規模や性格を把握するため埋蔵文化財発掘（試掘確認）調査を実施するとともに、現地説明会の開催や展示会や講演会の題材として取り上げ遺跡の周知を図る計画の立案に着手した。

一方で、地元住民の物集女城（跡）に対する理解を深め、住民自身が保存等への気運を高める必要があった。

当時、本市には市民主体の遺跡（史跡）の保存団体2団体があった。一つは、「大極殿遺蹟保存協賛会」で、明治28（1895）年の『平安遷都千百年紀祭』を契機に、桓武天皇の偉業の地として長岡宮の検証が行われ、石碑が建立された同年に組織された、国指定史跡長岡宮跡に関する保存団体である。一つは、昭和43（1968）年の向日市立第3向陽小学校建築に伴う埋蔵文化財発掘調査において検出され、保存された弥生時代の集落跡である森本遺跡を、昭和57（1982）年の再整備の際に発足した「森本遺跡保存会」（市指定史跡）である〔昭和57（1982）年12月12日発足〕。

平成6（1994）年夏から秋にかけて、物集女城跡に関し上述した2団体と同様に市民主体の保存等に関する団体の組織化の声が高まった。これについて向日市教育委員会は、この時期に地元の物集女区事務所や地元在住の市役所職員OBと頻繁に協議を行っている。

平成6（1994）年12月12日に物集女町の基礎を築いた物集女氏を偲び、その居城である物集女城を向日市と協調を図りながら調査・整備し、後世に守り伝えることを目的として、物集女町住民を中心として「物集女城を考える会」が発足した。

顧問には向日市文化財保護審議会委員で本市在住の大阪大学名誉教授の脇田修氏及び本市教育長並びに企画財政部長（現ふるさと創生推進部長）が、参与に向日市文化財調査事務所長及び向日市埋蔵文化財センター長（現向日市教育委員会文化財調査事務所長・同向日市文化資料館長、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター事務局長）が就いた。

設立趣旨及び会則は、以下のとおりである。なお、ピーク時の会員数は、個人94名、法人1社である。

〔設立の趣旨〕

物集女町内におきましては、旧石器時代にさかのぼる中海道遺跡を始め新しく保存整備されました6世紀中ごろの前方後円墳である物集女車塚古墳など多くの文化遺産があります。

特に、物集女町中条に所在します物集女城跡は向日市内において唯一の城郭跡として近年の開発の影響も少なく、中世の貴重な文化遺産が、物集女町の永い歴史と共に存続してまいりました。

このかけがえのない文化財を保存・整備・顕彰するため、関係者が協議を重ね「物集女城を考える会」を発足させました。

この会は、物集女町の基礎を築いた物集女氏を偲び、その居城である物集女城を向日市と協調を図り、調査、整備し後世に守り伝えることを目的としております。

向日市では、物集女城は市の貴重な文化遺産であると位置づけられ、平成5年度から濠（通称城の池）の周辺の整備に着手をいただいております。今後、文化財の発掘さらには城の復元整備のための調査も計画していただいております。この会の目的を達成するには、永い歳月を必要と致しますが、このかけがえのない文化遺産を保存、整備、顕彰することによって地域住民の皆様と共に、一層ふるさと意識の高揚に寄与致したいと存じております。

物集女城を考える会 会則

(名称)

第1条 この会は、物集女城を考える会（以下「会」という）と称する。

(事務所)

第2条 この会の事務所は向日市物集女公民館内に置く。

(目的)

第3条 この会は、物集女町の基礎を築いた物集女氏を偲び、その居城である物集女城を向日市と協調を図りながら調査・整備し、後世に守り伝えることを目的とする。

(事業)

第4条 この会は、その目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 物集女氏及び物集女城に関する調査、資料の収集を推進するための事業
- 2 向日市と協調を図りながら物集女城の保存、整備を推進するための事業
- 3 物集女氏及び物集女城の由来や歴史的意義を広く啓発、広報する事業
- 4 その他、この会の目的を達成するために必要な事業

(会員)

第5条 この会の会員は、この会の趣旨に賛同した者及び役員会において推薦したものとする。

(役員)

第6条 この会に次の役員を置く。

会 長	1 名
副会長	3 名
理 事	若干名

会 計 1 名

監 事 2 名

(選任)

第7条 役員は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- 1 会長はこの会を代表し、会務を統轄する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代理する。
- 3 理事は、会務に参画する。
- 4 会計はこの会の会計経理を行う。
- 5 監事はこの会の会計を監査する。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は3年とし再任を妨げない。

- 2 役員は仕事満了しても次期役員が決定し事務引継ぎが終わるまで当該役員の仕事につくものとする。
- 3 欠員により選任された役員の仕事は前任者の仕事とする。

(会議)

第10条 会議は、総会及び役員会とする。

- 2 総会及び役員会は会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長をもって充てる。
- 4 総会は、次の事項を審議決定する。
 - 1) 会則の制定及び改廃
 - 2) 役員の仕事
- 5 役員会は次の事項を審議決定する。
 - 1) 事業計画及び予算
 - 2) 事業報告及び決算
 - 3) その他会長が必要と認めた事項

第11条 この会の会計年度は1月1日から翌年3月31日までとする。

- 2 この会の経費は会費、補助金、寄付及びその他の収入をもってあてる。

(顧問及び参与)

第12条 この会に顧問及び参与を置くものとする。

- 2 顧問は、大阪大学名誉教授脇田修先生及び向日市教育長、向日市企画財政部長とする。
- 3 参与は、向日市文化財調査事務所長及び向日市埋蔵文化財センター長とする。
- 4 顧問は会議に出席して意見を述べることができる。
- 5 参与は、会議に出席して意見を述べるとともに、この会の事務を司るものとする。

第13条 この会の役員は無報酬とする。但し、必要により実費を支給する。

附 則

- 1 この会則の施行に必要な事項はそのつど会長が決める。
- 2 この会則施行後、最初に選出された役員任期については、第 9 条の規定にかかわらず平成 9 年 3 月までとする。
- 3 この会則は平成 6 年 12 月 12 日より施行する。

※本会則は、発足時のものである。

物集女城を考える会の主な活動は、次のとおりである。

- (1) 年 3～4 回の役員会及び総会 (3 月第 1 土曜日)
 - (2) 年 1 回の史跡見学会 (12 月第 1 日曜日)
 - (3) 年 1 回の講演会 (3 月第 1 土曜日、総会終了後)
 - (4) その他、埋蔵文化財発掘調査支援、土塁の竹伐採、記念事業の開催等
- 以下、事業概要を概説する。

○史跡見学会

毎年 12 月の第 1 日曜日に大型観光バス 1 台による史跡見学会を開催している。見学地の条件は、物集女城と関連が深い城跡、整備活用が行われている城跡、地元ボランティアが遺跡の維持管理や案内開設など活用が盛んな城跡を条件に選定し、平成 9 (1997) 年から平成 30 (2018) 年までの間に 22 か所を訪れ研鑽を深めてきた (第 2 回は役員のみ見学会)。この中でも尼崎市の富松城跡は、市民のボランティア団体が土塁の竹の伐採や除草などの維持管理のほか見学者への案内開設や自主事業の開催などが行われていた。物集女城跡と似た環境下での市民活動は、今後の物集女城を考える会の方向性を考察するうえで非常に参考となった。なお、史跡見学会は、令和元 (2019) 年 12 月から新型コロナウイルス感染防止の観点から中止している。



第 90 図 平成 25 年度史跡見学会
和歌山城にて



第 91 図 平成 30 年度史跡見学会
富松城跡にて

表-6 物集女城を考える会見学会一覧表

回	年度	実施年月日	見 学 地
1	平成9年度	平成09年02月28日(金)	池田城（大阪府池田市）
2		平成10年03月08日(日)	足助城（愛知県岡崎市）〔役員会〕
3	平成10年度	平成10年12月06日(日)	黒井城跡、春日町歴史民俗資料館（兵庫県水上郡春日町）
4	平成11年度	平成11年12月05日(日)	甲賀の城（滋賀県甲賀町）、阿山町ふるさと資料館（三重県阿山町）
5	平成12年度	平成12年12月10日(日)	「今井町」（奈良県橿原市）、中家住宅（奈良県生駒市）
6	平成13年度	平成13年12月02日(日)	大阪府立狭山池博物館（大阪府狭山市）、中家住宅（大阪府熊取町）、岸和田城（大阪府岸和田市）
7	平成14年度	平成14年12月08日(日)	坂本城、姫路城（兵庫県姫路市）
8	平成15年度	平成15年12月07日(日)	京極氏館・庭園跡（滋賀県伊吹町）ほか
9	平成16年度	平成16年12月05日(日)	滋賀県立安土城考古博物館、近江八幡市（滋賀県近江八幡市）
10	平成17年度	平成17年12月04日(日)	滋賀県大溝城、高島歴史民俗資料館及び清水山城館等（滋賀県高島市）
11	平成18年度	平成18年12月03日(日)	一乗谷朝倉氏遺跡資料館、同城館跡遺跡公園（福井県福井市）
12	平成19年度	平成19年12月02日(日)	天空の城「竹田城跡」を訪ねて（兵庫県朝来市）
13	平成20年度	平成20年12月07日(日)	まいづる「田辺城と赤れんが博物館」を訪ねて（京都府舞鶴市）
14	平成21年度	平成21年12月06日(日)	かめやま「亀山城と関宿」を訪ねて（三重県亀山市）
15	平成22年度	平成22年12月05日(日)	「水軍の城 洲本城」を訪ねて（兵庫県洲本市）
16	平成23年度	平成23年12月04日(日)	「伊賀上野城」を訪ねる（三重県伊賀市）
17	平成24年度	平成24年12月02日(日)	「犬山城」を訪ねて（愛知県犬山市）
18	平成25年度	平成25年12月01日(日)	「和歌山城と紀三井寺」を訪ねて（和歌山県和歌山市ほか）
	平成26年度	平成26年12月14日(日)	設立20周年記念コンサート開催につき中止
19	平成27年度	平成27年12月06日(日)	「大垣城と奥の細道むすびの地」を訪ねて（岐阜県大垣市）
20	平成28年度	平成28年12月04日(日)	「清洲城と甚目寺」を訪ねて（愛知県清須市、あま市）
21	平成29年度	平成29年12月03日(日)	「赤穂城と大石神社、浅野家菩提寺」を訪ねて（兵庫県赤穂市）
22	平成30年度	平成30年12月02日(日)	「富松城跡と近松門左衛門」を訪ねて（兵庫県尼崎市）

○講演会

毎年3月の第1土曜日の総会終了後に会員だけではなく一般市民も対象として講演会を開催している。この講演会は、本会の趣旨の一つ物集女氏と物集女城（跡）に関する広報普及と理解を深めることにある。本講演会は、平成7（1995）年度から平成29（2017）年度まで、24回、28人の講師から最新の調査研究成果の講演、紙芝居などの広報活動の紹介を得た。この講演等により、地元住民及び一般の参加者は、埋もれた物集女氏の歴史を学び、物集女城跡の重要性を確認することができ、非常に貴重な講演会となった。

表-7 物集女城を考える会講演会一覧表

(敬称略、役職等は講演会当時のもの。)

	年度	開催日	演 題	講 師
1	設立記念講演会	平成7(1995)年 11月25日(土)	物集女城と物集女氏	脇田修(大阪大学名誉教授)
2	平成7年度講演会	平成8(1996)年 3月23日(土)	物集女氏と細川氏	高橋昌明(滋賀大学教授)
3	平成8年度講演会	平成9(1997)年 3月22日(土)	古墳時代の乙訓	和田晴吾(立命館大学教授)
4	平成9年度講演会	平成10(1998)年 3月14日(土)	西岡(にしのおか)の仏たち	中野玄三(嵯峨美術短期大学名誉教授)
5	平成10年度講演会	平成11(1999)年 3月13日(土)	京都府の中世城館を探る	中井均(米原町教育委員会・城郭談話会)
6	平成11年度講演会	平成12(2000)年 3月18日(土)	細川藤孝(幽齋)と山城国人物集女氏	仁木宏(大阪市立大学文学部助教授)
7	平成12年度講演会	平成13(2001)年 3月17日(土)	地域の城跡を学ぶ-物集女城について-	福島克彦(大山崎町歴史資料館学芸員)
8	平成13年度講演会	平成14(2002)年 3月16日(土)	物集女城はどのようにして造られたのか?-発掘調査の成果から謎解きをしよう-	山口均((財)向日市埋蔵文化財センター)
9	平成14年度講演会	平成15(2003)年 3月15日(土)	関西土塁遺構と物集女城 -景観としての土塁遺構の重要性について-	山上雅弘(兵庫県教育委員会・土塁サミット世話人)
10	平成15年度講演会	平成16(2004)年 3月13日(土)	縄張りからみた乙訓の中世城館	多田暢久(姫路市教育委員会・城郭談話会)
11	平成16年度設立10周年記念講演会	平成17(2005)年 3月12日(土)	戦国時代の城と物集女城	脇田修(大阪大学名誉教授)
12	平成17年度講演会	平成18(2006)年 3月11日(土)	物集女城と織田の城・京都の城	中西裕樹(高槻市教育委員会・城郭談話会)
13	平成18年度講演会	平成19(2007)年 3月11日(土)	三好政権と西岡地域の国人・土豪	野田泰三(京都光華女子大学助教授)
14	平成19年度講演会	平成20(2008)年 3月8日(土)	城館の分布からみた乙訓 -他地域の事例と近年の研究成果-	早川圭(高槻市立埋蔵文化財センター学芸員)
15	平成20年度講演会	平成21(2009)年 3月14日(土)	ふるさと物集女を考える	長谷川澄夫(むこうまち歴史サークル)
16	平成21年度講演会	平成22(2010)年 3月13日(土)	草嶋城跡の発掘調査について	加納敬二(京都市埋蔵文化財研究所総括主任)
17	平成22年度講演会	平成23(2011)年 3月12日(土)	I 物集女氏の物語 紙芝居をつくる-ふるさとの歴史教材づくり-(経過報告)	中西昌史(向日市教育委員会学校教育課)
			II 天竜寺領物集女庄と物集女氏	玉城玲子(向日市教育委員会文化資料館)
18	平成23年度講演会	平成24(2012)年 3月10日(土)	I 紙芝居上演:ふるさと向日市の戦国時代-「西岡衆の活躍」	中西昌史(向日市教育委員会学校教育課)
			II① 中世における山城国草嶋氏の存在形態	板東瑞帆(大阪市立大学文学部哲学歴史学科日本史コース3回生)
			II② 中世後期における西岡土豪物集女氏の地域支配	石川美咲(大阪市立大学文学部哲学歴史学科日本史コース3回生)
19	平成24年度講演会	平成25(2013)年 3月9日(土)	三好政権と物集女氏	天野忠幸(関西大学非常勤講師)
20	平成25年度講演会	平成26(2014)年 3月8日(土)	中世後期の畿内支配構造と西岡衆・物集女氏	古野貢(武庫川女子大学講師)
21	平成26年度講演会	平成27(2015)年 3月7日(土)	物集女宗入公像の発見 宗入創建・聖聚院の歴史	松田道観(浄土宗大本山清浄華院 史料編纂室研究院)
22	平成27年度講演会	平成28(2016)年 3月5日(土)	土器からみた物集女城と上植野城	伊野近富((公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター副主任)
23	平成28年度講演会	平成29(2017)年 3月11日(土)	I 電子紙芝居:西岡衆の活躍(人形と演者によるパフォーマンス)	読み聞かせサークルはらべこあおむし&京都乙訓ふるさと歴史研究会
			II 講演:物集女宗入の伝承と足跡 附 再発見の物集女宗入書状について	松田道観(浄土宗大本山清浄華院 史料編纂室研究院)
24	平成29年度講演会	平成30(2018)年 3月3日(土)	中世の向日神社と西岡衆・物集女氏-向日神社御鎮座1300年に際して-	玉城玲子(向日市教育委員会文化資料館)

この講演会の内容を含め、物集女氏と物集女城(跡)に関する成果は、本冊の他章に委ねる。なお、本講演会も史跡見学会と同様に、令和元(2019)年12月から新型コロナウイルス感染防止の観点から中止している。

○記念事業

物集女城を考える会は、平成6(1994)年12月12日の発足以来約30年が経過する。この間、10年ごとの節目に記念事業を実施した。

設立10周年記念事業は、本会の顧問で大阪大学名誉教授の脇田修氏に「戦国時代の城と物集女城」と題し講演を賜るとともに、「物集女城を考える会設立10周年記念誌『10年のあゆみ』」、カラーパンフレット「京都・乙訓に残る戦国時代の城館『物集女氏と物集女城』」を刊行した。カラーパンフレットは、物集女城跡の南西約100mに所在する物集女区事務所において有料で販売し、物集女城を考える会の活動資金とした。

設立20周年記念事業は、平成26(2014)年12月14日に物集女氏の子孫の一人とされる洗足学園音楽大学講師(当時)物集女純子氏を本市に招き、「物集女城を考える会 結成20周年記念コンサート『戦国浪漫の調べ』」を開催した。

このコンサートは、向日市立西ノ岡中学校体育館において2部制で実施した。第1部は同校吹奏楽部生徒による演奏と文化資料館職員による「中世の西岡と物集女氏の活躍」題した講演、第2部はヴァイオリン(物集女純子氏)とピアノ(横山美里氏)のコンサートであった。

このコンサートは、非常に好評を博し、地元市民、地元中学校、地元商工会など一丸なり、一体感のある事業として取り組むことができた。



第92図 設立10周年記念講演会(脇田修氏)



第93図 設立20周年記念コンサート

物集女城を考える会 結成20周年記念コンサート

戦国浪漫の調べ

～物集女氏の後裔が450年の時をこえて故郷で奏でるヴァイオリンの旋律～

日時 平成26年(2014) 12月14日(日) 13時～15時45分(12時30分開場)

会場 向日市立西ノ岡中学校体育館

主催 物集女城を考える会
後援 向日市 物集女町自由連合会

入場無料 定価 400円(当日券別)

プログラム

【オープニング】13時～13時15分
西ノ岡中学校吹奏楽部 演奏

【第一部】13時45分～14時15分
物集女氏と物集女城に関する講演
講師 [中世の西岡と物集女氏の活躍]
講師 文化資料館長

【第二部】14時30分～15時30分
ヴァイオリンとピアノのコンサート
ヴァイオリン 物集女純子氏
ピアノ 横山美里氏

おもな曲目
マスネ 「タイスの瞑想曲」
モーツァルト 「チャルダッシュ」
サラサーテ 「チゴイネルワイゼン」
ラヴェル 「ヴァイオリンソナタ」

お問い合わせ先
物集女区事務所
〒617-0001 向日市向日物集女区中島 2番
電話 075-921-0045

第94図 設立20周年記念事業チラシ

2 物集女城跡の適切な保存と整備、活用の促進について

対象文化財の名称 物集女城跡 (もずめじょうあと)

対象文化財の所在地 京都府向日市物集女町中条 13 番ほか 約 11 筆

対象地域の面積 6,248.78㎡

〔面積内訳〕 国有地	0.00㎡
府有地	0.00㎡
市有地	38.78㎡
公社等有地	0.00㎡
社寺有地	0.00㎡
私有地	6,210.00㎡
計	6,248.78㎡

対象地域の地目及び現状 東の農業用水池 (溜池) があり、その西側で畑作が行われている

〔地目内訳〕 溜池	1,710.00㎡
畑	1,351.00㎡
山林	3,149.00㎡
道路 (里道)	38.78㎡
計	6,248.78㎡

物集女城は、室町から戦国時代に当地域の一角を本拠とした「国衆」(国人) と呼ばれた在地領主である「物集女氏」の居城と考えられる。

この物集女氏が初めて歴史上に現れるのは、長享元 (1487) 年閏 11 月 3 日に上久世庄 (現京都市) に「郷々出銭」という自分たちに有利となるよう荘園領主に協力を要請した文書に、桂川右岸の広い地域である「惣国」の代表者六人の中に「物集女四郎右衛門尉光重」の署名が見られる。

この物集女氏は、恐らく室町幕府に仕えた小領主「西岡被官衆」の一人で、足利義政の後継者争いを発端とした、応仁の乱 (1467 ~ 77 年) 後に惣国の結集に参加したものと考えられている。

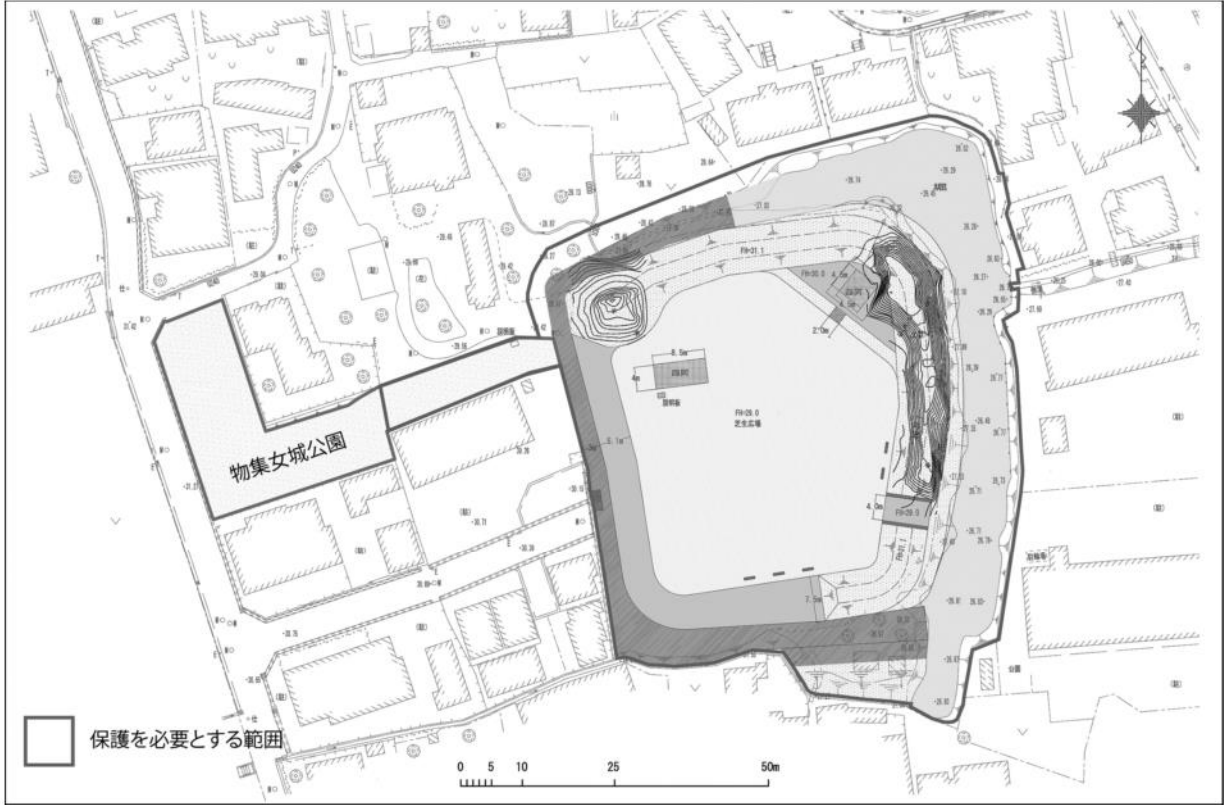
織田信長が山城地域を鎮圧した後、天正元 (1573) 年に細川藤孝は信長から桂川西岸一帯の土地に対する多種の権利を一元的に支配する「一職」を与えられ、国人等の領土を安堵した。安堵を受けた国人等は、勝龍寺城 (長岡京市) の藤孝のもとに礼に参上すべきところ、物集女氏の当主である「物集女忠重入道宗入 (疎入)」は代々の自分の領地であり「参上する謂われはない。」と拒絶したため、藤孝の重臣等によって勝龍寺城下で誘殺され、以後、物集女氏は衰退したと伝えられていた。

これまで十数回の発掘調査により、次第に物集女城跡の様子が明らかとなってきた。

その規模は東西約 70 m、南北約 75 m で、周囲に幅約 13 m、深さ約 2.5 m を測る大規模な堀と、高さ 2 m 以上の土塁を配した「方形単郭式」の構造で、15 世紀後半に築造と考えられている。

内郭の埋蔵文化財発掘調査では、城館内から建物や溝、ゴミ捨て穴などが発見され、出土した土器から、京の中心部の華やかさと地元の質素な生活様式の混在が伺われる。

この物集女城跡は、都を眼前に控え、絶えず洛中を伺う勢力と戦いと協調を繰り返してきた、桂川右



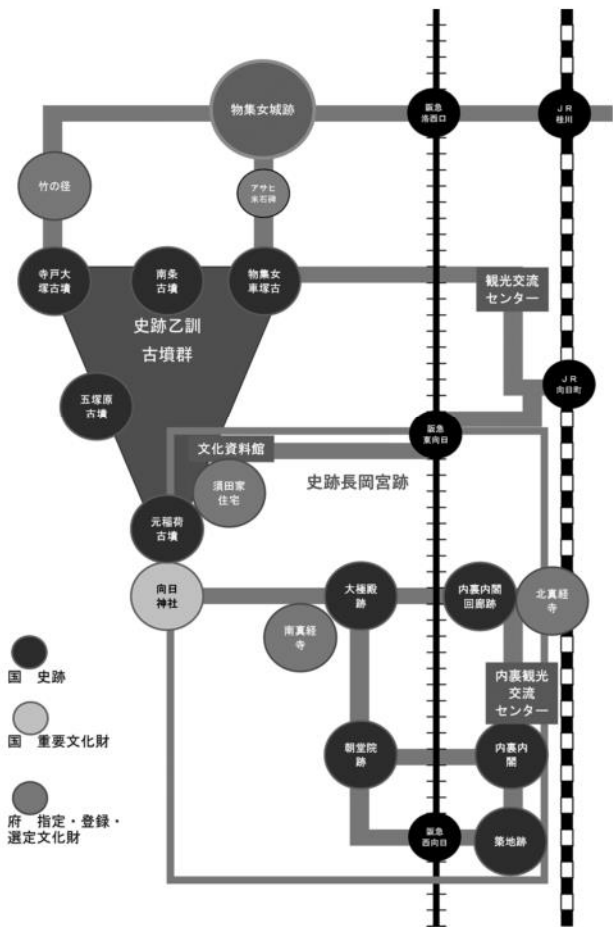
第 95 図 物集女城跡の保護を必要とする範囲及び整備計画、活用図（案）

岸の乙訓地域の小領主「西岡被官衆」の城跡で、戦国時代の都の周辺地域を考察する上で欠くことができない極めて貴重な遺跡である。

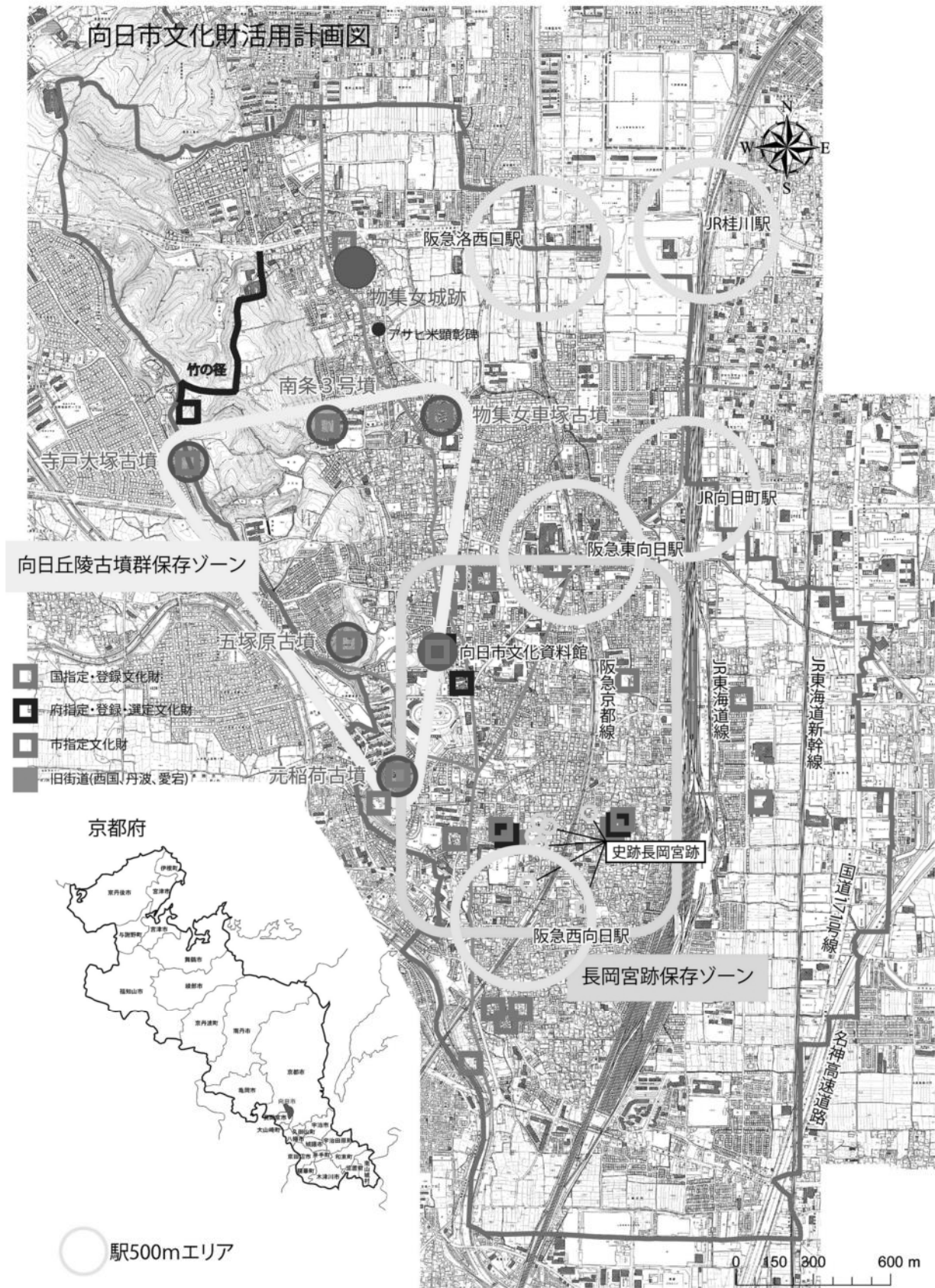
本市には、市の南部に「史跡長岡宮跡」が、市の中西部に「史跡乙訓古墳群」の5基の古墳が所在する。本物集女城跡は、市の北部に所在し、史跡長岡宮跡や史跡乙訓古墳群と同様に貴重な遺跡であり、これらを連結することにより市域全体での文化財の活用が可能となる。

また、これまで良好な形で保存されてきた物集女城跡であるが、土地所有者の逝去や高齢化により開発等が検討され、破壊の危機に直面し極めて危険な状態である。

このため、国による史跡指定により適正に保存し、整備のうえ活用を促進することにより、市民の地域愛を育み、地域振興・観光振興を促進することにより、豊かで特色あるまちづくりに寄与するものと考えられる



第 96 図 向日市文化財保存活用計画案（模式図）



第 97 図 向日市文化財保存活用計画図案